

(ご参考①) 中期経営計画の概要と平成20年度の経営方針、進捗

中期経営計画（19～21年度）の概要

お客さまの視点に立ったSMFGの『付加価値』を極大化することにより、「最高の信頼を得られ世界に通じる金融グループ」を目指す

戦略施策

- 成長事業領域の重点的強化
- 持続的成長に向けた企業基盤の整備

経営目標

- ・成長事業領域におけるトップクオリティの実現
- ・グローバルプレーヤーに相応しい財務体質の実現
- ・株主還元の充実（配当性向20%超）

21年度財務目標
(SMFG連結)

・当期純利益	: 6,500億円
・Tier I比率	: 8%程度
・当期純利益RORA	: 1%程度
・経費率(SMBC単体)	: 40%台前半
・連結ROE	: 10-15%

平成20年度 経営方針と戦略施策：
「不透明・不確実な環境変化に適切に対応しつつ、着実に前進」

当社グループは、不透明・不確実な環境変化に対処すべく、引き続き、潜在的な損失発生・拡大の芽に早期に対処するとともに、限りある経営資源を成長分野に傾斜投入し、中長期的な成長の実現に向け、中期経営計画で掲げた「成長事業領域の重点的強化」及び「持続的成長に向けた企業基盤の整備」の2点に着実に取り組んでまいります。

■ 成長事業領域の重点的強化

個人向け金融コンサルティングビジネス

支払・決済・コンシューマーファイナンス

法人向けソリューションビジネス/
投資銀行・信託業務

グローバルマーケットにおける特定分野

<主要施策(例)>

資産運用商品ラインアップの強化/東海地区等における新規出店

クレジット事業における中間持株会社「SMFGカード&クレジット」設立(10月)/プロミスとの協働推進

お客さまの経営課題解決に資するソリューション提供力の高度化/
大和証券IS&IBサービスとの協働推進中国現地法人設立準備/競争優位性を持つプロダクツの強化/
パークレイズ・ヒールズ及びアジアの商業銀行との戦略的提携の推進

■ 持続的成長に向けた企業基盤の整備

コンプライアンスの徹底

リスク管理の高度化

CS(お客さま満足度)向上・品質管理高度化

ニューヨーク証券取引所への上場検討

中期経営計画の財務目標における経済金融指標の前提について

当社グループでは、中期経営計画に基づき様々な戦略施策を展開し、平成19年度においては、中期経営計画実現に向けた取組みを着実に進捗させることができました。しかしながら、「緩やかな景気拡大に伴う金利上昇」という、中期経営計画における経済金融環境の前提は、20年度に入って以降特に、現実との乖離が拡大してきており、21年度の目標としておりました利益水準につきましては、計画期間中の達成が難しい状況となっております。

一方、当社グループと致しましては、内外事業環境における不確実性・不透明性が高まる中、経費率(SMBC単体)の40%台確保を通じた事業の効率性確保や、Tier I比率の着実な向上を通じて、現中期経営計画の経営目標である「グローバルプレーヤーに相応しい財務体質の実現」へと歩を進めるとともに、将来の成長に向けた布石を着実に打っていきたいと考えております。

なお、現中期経営計画の最終年度であります平成21年度の業績予想につきましては、来年5月に予定されております平成20年度決算発表時に公表させていただく予定です。

中期経営計画期間中の主な経済金融指標の前提及び実績 経費率(SMBC単体)とTier I比率の推移

名目	平成20年度	中計の前提	平成20年9月末	経費率		
				経費率	Tier I比率	
名目GDP成長率(年率)		2.9%	▲0.6%*	平成18年度	44.9%	6.42%
TIBOR3ヶ月物レート		1.12%	0.88%	-----	-----	-----
10年円スワップレート		2.10%	1.63%	平成19年度	44.8%	6.94%
ドル円		115円	104円	平成20年度上期	48.5%	7.08%

* 日本総合研究所の20年度通期予測値(20年11月時点)

	平成19年3月末	平成20年10月末
日経平均株価	17,287.65円	7,162.90円